

(1)

今日の肝臓 9時 12時 15時 18時 21時

通肝予報 (月) (火) (水) (木) (金) (土) (日)

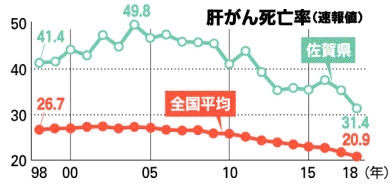
肝がんのない佐賀さいこう!
い肝ばい肝!

©2013 さが肝.net
佐賀大医学部附属病院 肝疾患センター

佐賀肝聞

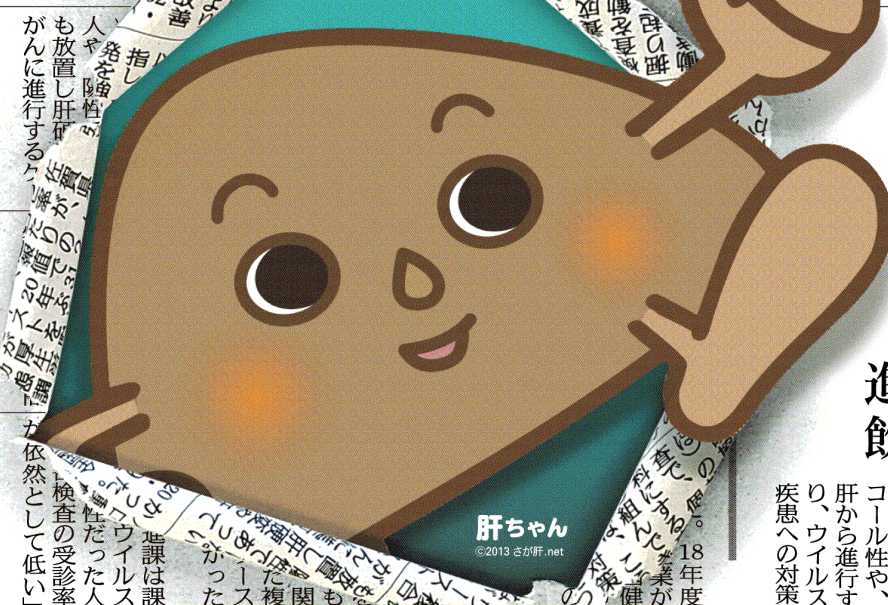
創肝号
2020
7/26日

創刊 2020年(令和2年) 企画 佐賀大医学部附属病院 肝疾患センター 〒849-8501 佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号 第00001号



肝がん死亡率 ワースト脱出 県、対策奏功20年ぶり

佐賀県の肝がん死亡率が、10万人当たりの2018年速報で31.4となり、20年ぶりにワーストを脱却したことが厚労省の人口動態調査で分かった。4で前年より減少したワースト脱出は、前年より2.2ポイント改善した。全国平均は20.9で、佐賀県は依然としてワースト水準が続いているものの、県は医療機関などの連携強化や肝炎ウイルス検査の個人費用の負担など、肝疾患対策が効果を上げつつあるとみている。



佐賀県内に多くのウイルス感染者がいるC型肝炎の治療が、飲み薬の普及で大きく変わってきた。副作用が強いインターフェロンを中心とした治療が長く続いたが、2014年に登場した飲み薬は副作用が少なく、多くのケースでウイルス排除が可能になった。B型肝炎を含め、ウイルス性肝炎治療のハードルは下がってきている。

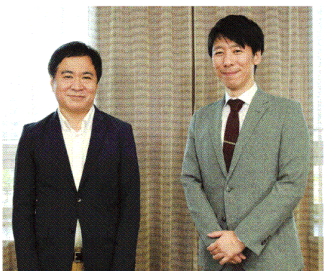
肝炎は治療できる時代へ

進化するC型肝炎治療 飲み薬でウイルス排除

インターフェロンは体内の免疫力を高めてウイルスの活動を鎮静化させる働きがある注射薬で、長くC型肝炎の治療に使われてきた。ただ副作用が強く、治療効果も決

治療薬の開発によって肝炎ウイルスを排除できた患者は増えていくが、ウイルス治療を受けてもがんを発症する可能性は残る。アルコール性や、非アルコール性脂肪肝から進行するがんも増加しており、ウイルス以外が原因となる肝疾患への対策も重要になっている。

この特集紙面は、佐賀大医学部附属病院 肝疾患センターの協力で、佐賀県の肝炎対策や肝炎医療コーディネーター、患者会の活動など肝疾患に関する情報を紹介します。



巻頭対談「肝炎治療 新時代」2・3面
佐賀大医学部附属病院肝疾患センター長に就任した高橋宏和氏と、県医療統括監の野田広氏が語り合う。

- 佐賀県の肝炎対策の歩み 4・5面
- 医師に聞く 受診の大切さ 6面
- 登録医療機関リスト 7~9面
- 肝ちゃんぬりえコンテスト 10面
- 患者会の活動 11面
- 肝炎医療コーディネーターって? 12・13面
- 最近の肝臓病トピックス 14面

スペシャル対談



ストップ肝がん!対談 15面

肝ちゃんの自由研究 16面

18年度受診率も49.1%にとどまっております。23年度までの第2次県肝炎対策推進計画で受診率を90%以上にすることを目指し、取り組みや啓発を強めています。(小部亮介) (2019年10月17日 佐賀新聞より転載)

佐賀県のがん情報サイト
がんポータルさが
がんポータルさが
<https://www.ganportal-saga.jp>

保存版!
佐賀県
肝炎医療提供体制
登録医療機関リスト

ウイルス性肝炎の検査・治療に県の助成制度が利用できる医療機関をまとめました。

7面をチェック!

肝臓抄
2018年、佐賀県は1999年以来続いていた肝がん死亡率ワースト1位から脱却した。平成の時代、肝がんの最大の原因であったC型肝炎ウイルス感染率が全国ワースト1位であった佐賀県、肝がん死亡率ワースト1位から抜け出したことは大きな成果である。先進的な取り組みを続けることができたのは、県をはじめとする自治体、治療の主力となった医師会、肝疾患センターを中心とした大学が一体となり、熱意を持って対策を続けてきたことが最大の要因であろう。多くの関係者のご努力には改めて敬意を表したい。◆とはいえ佐賀県の肝がん死亡率はまだ高い。令和の時代には新しい対策も模索しつつ、肝がんのできる人が少ない県とされる時代になることを願ってやまない。(佐賀県保健管理センター・佐賀県肝疾患対策委員会 尾崎岩太)

肝臓なんでも相談窓口 ☎0952-34-3731 (平日10:00~16:00) HP <https://sagakan.med.saga-u.ac.jp>

Sagakan
佐賀大医学部附属病院
肝疾患センター
ホームページ

佐賀 肝疾患センター
で検索! Q

肝炎クイズ! ページ
13面 16面

ウェブで
カンタン
回答!

2問とも正解された方のうち、抽選で3名様に佐賀県産品(5000円分相当)プレゼント!

制作・発行/佐賀新聞社

7/28 は **世界肝炎デー**

肝がんのない佐賀県を見たいんだ!!

NO KANGAN

はなわさんと
のスペシャル対談は
佐賀肝聞の
15面へ!

7/28は **世界肝炎デー**

世界保健機構(WHO)は2010年に毎年7月28日を“World Hepatitis Day”(世界肝炎デー)と定め、ウイルス性肝炎の蔓延防止及び患者・感染者への差別・偏見の解消などを図る事を目的とした啓発活動等を実施しています。

今回の世界肝炎デー in SAGA のテーマ
「肝がんのない佐賀県を見たいんだ!!」

●後援
佐賀市 | 一般社団法人 佐賀県医師会 | 一般社団法人 佐賀県薬剤師会 | アイティーアイ株式会社 | アストラゼネカ株式会社 | アツギ合同会社 | EAファーマ株式会社 | 一般社団法人 佐賀県放射線技師会 | 肝炎佐賀の会 | エーザイ株式会社 | 大塚製薬株式会社 | ギリアド・サイエンシズ株式会社 | 佐賀県医薬品卸業協会 | サガテレビ | ふんぶんテレビ | 佐賀新聞社 | 西日本新聞社 | 株式会社サガテレビ | シスメックス株式会社 | 第一印刷株式会社 | 大日本住友製薬株式会社 | エフエム佐賀 | NBCラジオ佐賀 | 武田薬品工業株式会社 | 田辺三菱製薬株式会社 | 中島商事株式会社 | 株式会社ミス

主催:佐賀大医学部附属病院 肝疾患センター 共催:佐賀県健康増進課がん撲滅特別対策室

肝がんのない佐賀さいこう! ほら、い肝ばい肝!

■各種助成制度についてのお問い合わせはこちらへ 佐賀県健康増進課 がん撲滅特別対策室 TEL0952-25-7491

■肝炎・肝がんの症状、検査、検診、治療についてのご相談はこちらへ 佐賀大医学部附属病院 肝臓なんでも相談窓口 TEL0952-34-3731



高橋宏和氏

佐賀大医学部附属病院 肝疾患センター長

野田広氏

佐賀県医療統括監

佐

賀県は2018年の肝がん死亡率で20年ぶりに全国ワーストを脱却し、肝炎対策に取り組む関係者に大きな喜びをもたらしました。悲願達成の一方で、ウイルス以外が原因となる肝臓病が増加しており、佐賀県の肝炎対策は新たなステージに向けて動き出しています。これまでの取り組みや今後の課題などについて、4月に佐賀大医学部附属病院肝疾患センター長に就任した高橋宏和氏と、県医療統括監の野田広氏が語り合いました。

対策が開花、悲願達成

「悲願だった肝がん死亡率全国ワースト脱却の一報を受けた時、どんなお気持ちでしたか。」

高橋 「感動」のひとつです。多くの方々の努力を間近で見られましたし、私自身も貢献できるように頑張ってきましたから、患者さんや関係者の皆さんに感謝の気持ちが湧き上がりました。

野田 県は1980年半ばには母子感染対策、90年代は検診事業と、先進的に肝炎対策に取り組んできました。県医師会、佐賀大、日本トップクラスの専門家に根気強く関わっていただいで、積み上げてきたものが花開いたと思います。

「なぜワースト脱却を達成できたのでしょうか。」

野田 2008年に「肝疾患診療連携拠点病院」に指定された佐賀大医学部附属病院に、12年、「肝疾患センター」が開設されました。センターを拠点とした普及・啓発の取り組みの成果が大きく、患者さんを巻き込んだ形で洗い出した課題に対応する手法を開発、それが県の施策にも反映されてきました。

「そもそも、佐賀県で肝がんによる死亡率が高い理由は何でしょうか。」

高橋 佐賀県は肝がんの主な原因であるC型肝炎の罹患率が全国一です。C型肝炎ウイルスに感染すると、平均約30年で肝硬変に進行し、高率に

肝がんを発症します。いったん肝がんになると、1年で2〜3割が再発する怖い病気です。

以前治療薬として使われていたインターフェロンには重い副作用があり、患者さんには長くつらい治療を頑張ってもらっても、効果は十分とは言えませんでした。それが長らく肝がん死亡率を改善できなかった一因です。今では飲み薬だけでほとんどの患者さんが治るようになっていきます。

がん対策のシンボル

「全国ワーストを脱却したとはいえ、ワースト水準は続いています。」

高橋 ここ数年で新しい治療薬が登場し、効果的な治療が可能になったことに加え、肝臓・消化器を専門とする医師、県医師会、行政が一丸となった肝炎対策が着実に前進してきました。ただ、ワースト脱却は瞬間最大風速 かもしれない、油断するとワースト1位に逆戻りするかもしれません。

佐賀方式(※1)の肝炎対策を絶え間なく続け、時代



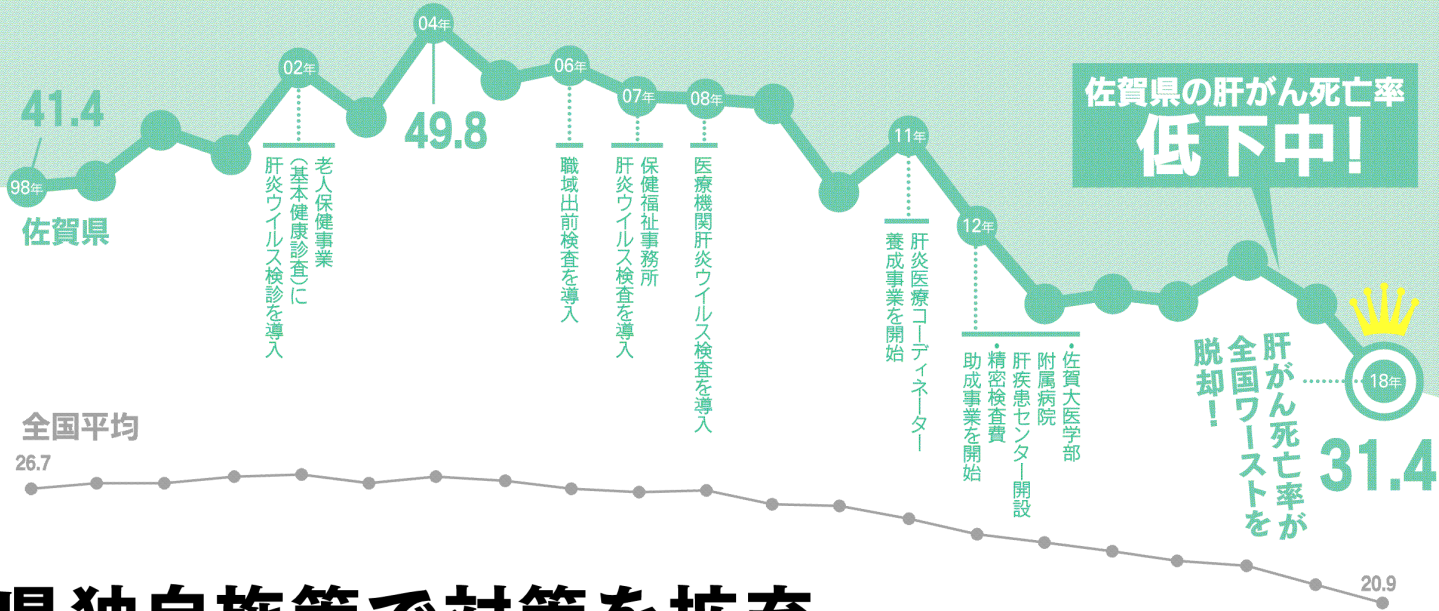
と状況に応じた対策も考えながら、全国最低レベルの肝がん死亡率を目指していきます。(※2)

野田 がん対策は県政の柱です。その中で肝がんの死亡率で全国ワーストが続いていたことは県のがん対策にとってシンドボルのな位置づけにもなっており、脱却を成し遂げたことは、本当に心強いところです。

医療界では予防対策などの効果を見ると、より適切に比較できるよう、年齢構成が同じになるよう調整した「年齢調整死亡率(75歳未満)」を用います。これによると佐賀県は17年がワースト2位、18年はワースト18位でした。これは肝炎対策の効果が「見える化」

佐賀県の肝炎対策の歩み

佐賀県はB型・C型の肝炎ウイルス陽性率が高く、肝がんの死亡率が長年、高い数値で推移してきました。1986年に県肝疾患対策検討委員会を設置するなど早くから対策に取り組み、精密検査費、治療費、定期検査費の助成など国の制度に県独自の施策も加えて対策を拡充。2018年には肝がん死亡率が全国ワーストを脱却しました。30年以上に及ぶ佐賀県の肝炎対策の歩みを紹介します。



県独自施策で対策を拡充

19年連続で死亡率ワースト

佐賀県内では肝がん患者の多くをC型、B型肝炎ウイルスキャリアが占め、人口10万人当たりの肝がん死亡率は、1999年から19年連続で全国ワーストを記録。49・8でピークだった2004年以降は減少傾向が続き、18年は31・4と18・4ポイント改善し、全国ワーストを脱却しました。

佐賀県の取り組み

① 肝炎ウイルス検査

県肝疾患対策検討委員会の発足によって総合的な肝疾患対策に乗り出した佐賀県では、肝炎ウイルス検査の実施も早く、1990年に県と市町村が共同で佐賀県独自の肝炎検査を始めました。2002年には市町村が行う基本健康診査に肝炎ウイルス検査を導入。06年からは職場健診の際に併せてウイルス検査を行う「職域出前検査」が始まりました。07年

には市町や職場で検査を受けられない人のために、県内の保健福祉事務所でウイルス検査がスタート。08年からは医療機関でも無料で検査ができるようになりました。県は18年から、県内企業が多く加入している全国健康保険協会(協会けんぽ)の被保険者が、ウイルス検査を受ける際の自己負担を無料にする事業も実施しています。



佐賀県では独自の肝炎対策に加え、「世界肝炎デー」のイベントなどさまざまな形で県民への啓発や情報発信が行われている。=2019年7月、佐賀市

県立治療院[明治]

[明治34年]

[大正7年]

[昭和52年]

県民と、ともに歩む

佐賀県医療センター 好生館

地方独立行政法人
佐賀県医療センター 好生館
SAGA-KEN MEDICAL CENTRE KOSEIKAN
SINCE 1834

TEL 0952-24-2171 FAX 0952-29-9390

〒840-8571 佐賀市嘉瀬町大字中原400番地

[詳しくはホームページをご覧ください]

好生館 検索 <https://www.koseikan.jp>

佐賀県の肝炎対策の歩み 年表

1964(昭和39)年	B型肝炎ウイルス発見
1986(昭和61)年	県肝炎対策検討委員会設置
1989(平成元年)	C型肝炎ウイルス発見
1990(平成2)年	県肝炎検診事業開始
1992(平成4)年	C型肝炎に対するインターフェロン治療が保険適用に
2000(平成12)年	B型肝炎に対する核酸アナログ治療が保険適用に
2002(平成14)年	老人保健事業(基本健康診査)に肝炎ウイルス検診を導入
2006(平成18)年	職域出前検査を導入
2007(平成19)年	保健福祉事務所肝炎ウイルス検査を導入
2008(平成20)年	医療機関肝炎ウイルス検査を導入 抗ウイルス治療費助成制度を開始
2010(平成22)年	肝炎対策基本法施行
2011(平成23)年	国の肝炎対策基本指針策定 肝炎医療コーディネーター養成事業を開始
2012(平成24)年	佐賀大医学部附属病院肝疾患センター開設 精密検査費助成事業を開始(県単独事業)
2014(平成26)年	定期検査費助成事業を開始 C型肝炎に対するDAA治療が保険適用に
2018(平成30)年	協会けんぽ 肝炎ウイルス検査を無料化 人口10万人当たりの肝がん死亡率が全国ワーストを脱却

検査、助成で国をリード

現在、①市町②医療機関③職域出前④保健福祉事務所⑤協会けんぽでの肝炎ウイルス検査が無料で受けられるほか、精密検査、抗ウイルス治療、治療後の定期検査の費用に対しても助成制度があります。08年にC型肝炎に対するインターフェロン治療への助成が始まり、その後も自己負担限度額の引き下げなど制度は拡充され、新薬の登場に合わせて助成対象が広がってきました。

費用の助成でも、佐賀県は国の対策をリードしてきました。県は12年、初回の精密検査費を助成する制度を設け、これが国の助成制度新設につながりました。国の制度では陽性となったウイルス検査の種類や時期を限定しているのに対し、県の制度ではウイルス検査で陽性と判定されれば助成対象となります。また、定期検査費助成では、所得制限を撤廃(助成額は上限5千円)して提出書類を簡素化した独自の制度を設けることで、大幅な検査数の増加につながりました。



肝疾患センターが入る
佐賀大医学部附属病院 地域医療支援センター＝佐賀市

肝疾患センターは、肝炎ウイルス検査の「受検」から「受診」「治療」に至るサイクルを軸に、肝がんや肝炎の予防・治療に関する研究を実施するほか、県民への多角的な啓発活動を行い、県が取り組む肝炎医療コーディネーター養成を推進しています。また、ウイルス検査の陽性者や治療費助成制度の利用者の情報などを蓄積する肝疾患データベースも構築しました。

C型肝炎治療は14年、ウイルスが作るタンパクの働きを直接阻害してウイルスの増殖を止める飲み薬「直接作用型抗ウイルス剤(DAA)」が登場したことで、大きく進歩しました。DAA新薬は次々に開発され、副作用が強い注射薬インターフェロンを問わずにウイルスを排除できるようになりました。現在では1日1回の服用を2〜3カ月間続ければ、ほとんど副作用なしにウイルスをほぼ100%排除できるようになっています。

B型肝炎の治療でも、インターフェロンの他に飲み薬「核酸アナログ製剤」が使われています。核酸アナログ製剤の服用によって、B型肝炎ウイルスが減少します。感染を防ぐために、B型肝炎ワクチンの予防接種も行われています。

② 費用助成

③ 肝疾患センター開設

肝がん死亡率全国ワーストからの脱却には、県と肝疾患診療連携拠点病院でもある佐賀大医学部附属病院との連携を核とした県内医療機関のネットワーク構築も大きく寄与しました。県は12年、佐賀大医学部に寄付講座「肝疾患医療支援学講座」を開設し、附属病院に「肝疾患センター」を設立しました。

C型、B型肝炎治療が進歩

ウイルス性肝炎は、飲み薬で治療できる時代となりました。早期に発見し治療することで、肝硬変や肝がんへの進行を予防できます。また、以前は治療が難しかった方(肝硬変、透析中など)や肝がん治療後の方でも、現在の薬であれば治療できる場合があります。肝臓が元気になって、体調が良くなる方もいらっしゃいますよ。

ワンポイントアドバイス One point advice



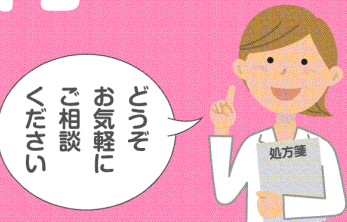
ふじおか病院
院長
岩根 紳治 氏

ワンポイントアドバイス One point advice
ウイルス性肝炎は、飲み薬で治療できる時代となりました。早期に発見し治療することで、肝硬変や肝がんへの進行を予防できます。また、以前は治療が難しかった方(肝硬変、透析中など)や肝がん治療後の方でも、現在の薬であれば治療できる場合があります。肝臓が元気になって、体調が良くなる方もいらっしゃいますよ。

全国どこの医療機関のものでも

処方せん 受付

いたします



おかげさまで創業130周年

くましろ薬局

～ since 1890 ～

●保険調剤/医薬品 ●健康食品 ●化粧品

佐賀市を中心に 12 店舗

嘉瀬店 / 木原店 / 黒川店 / 枳小路店 / 神野東店 / セリオ牛津店
八田店 / 北部バイパス店 / 本庄店 / 松原店 / 大和店 / 若宮店

<お問合せ> TEL 0952-23-5440 (神代薬局本部事務所)

医師に聞く 受診の大切さ

自覚症状が現れにくい肝臓は「沈黙の臓器」と呼ばれ、ウイルス検査や疾患の診断、治療の継続に果たす医師の役割は特に重要です。佐賀県では、提供する医療内容に応じた1次～3次の登録医療機関が役割を分担してウイルス性肝炎の検査や治療に当たる制度が整備されています。肝臓がん対策医会会長、3次医療機関の専門医、かかりつけ医に、それぞれの立場から受診の大切さを語ってもらいました。



かかりつけ医
(1次医療機関)

貝原医院
理事長・院長(県医師会専務理事)

貝原良太氏



3次医療
機関

済生会唐津病院
内科部長

柳田公彦氏



県肝癌対策
医会

県肝癌対策医会
会長(平井内科理事)

平井賢治氏

病院の役割分担が機能 エコー検査で早期対応

県医師会に肝臓部会(現在の肝癌対策医会)が発足したのは、2004年のこと。当時、県内には肝臓の専門医が少ない上に、基幹病院に集中していたため、診療体制が十分ではありませんでした。そこで県などと協力し、かかりつけ医と専門医が

連携して治療にあたる仕組みを整備。治療法の選択は専門医、治療の継続はかかりつけ医、という役割分担がうまく機能しています。

当初は肝がんの原因の9割が、ウイルス感染によって起こるC型肝炎とB型肝炎だったので、ま

ずはその克服を目指しました。肝炎は自覚症状がないと言いますが、治療によってウイルスを排除すると「だるさがなくなり元気になった」という声が多く聞かれます。

そのまま放置して肝がんに発展した例もあります。逆に言えば、きちんと服薬治療し、終わった後も定期的に通院して経過観察すれば、重症化を防ぐことができるのです。ポイントにはエコー(超音波)検査。副作用がない上に、小さながんも発見でき、

早期の処置で完治も見込めます。

病態に応じて治療実施 経過観察で連携生かす

私たち3次医療機関の専門医は、肝がんや肝硬変、肝不全など、患者さんの病態に応じた治療を行っています。

C型肝炎は、負担の少ない飲み薬で肝炎ウイルスを排除することができるようになりました。ただし、症状の程度やほか

の薬との併用などを考え、その人に合った薬を選ぶことが求められます。経過観察も重要で、エコー検査が得意かどうかなどを考慮しながらお願いする病院を決めます。これは医療機関の連携が進み、ほとんどの先生の顔が分かる佐賀ならではの取り

組みだと思えます。現在は生活習慣に起因する肝炎が増えています。飲酒による「アルコール性肝障害」や、お酒は飲まないけど脂肪肝から発症する「非アルコール性脂肪肝炎(NASH)」です。特に糖尿病の人はNASHになりやすいので、

生活習慣に注意して糖尿病予防を心掛けるように伝えていきます。糖尿病対策と併せ、慢性肝炎から肝硬変への進行をどう防ぐかも課題で、血液検査の指標から危険度の高い人を絞り込むようにしています。こうした取り組みも3次医療機関の役割だと考えています。

まずウイルス検査提案 専門医への橋渡し重要

日々の診察や健康診断のなかで患者さんの異常にいち早く気づき、専門医につなぐことが、私たち「かかりつけ医」の役割です。肝機能に何らかの異常が見られた場合は、まず肝炎ウイルス検査を提案します。

もし検査結果が陽性なら、専門病院での精密検査や治療が必要です。ただ、「自覚症状がないから自分は大丈夫」「仕事が忙しくて時間がない」などの理由から、受診しない人も少なくありません。そこで私たちは、放置すれば重症化し、肝がんになるリスクがあることも

しっかり説明します。同時に、通院しやすい近隣の病院を紹介したり、C型肝炎については副作用が少ない飲み薬で治療できることを伝えたりして、受診に前向きになってもらうよう心掛けています。

近年は、肝臓に脂肪がたまって炎症を起こす「脂肪肝」が増加中です。脂肪肝は糖尿病や肥満の人が発症しやすいので、専門医の治療と並行して、かかりつけ医のもとで糖尿病や生活習慣の改善を図ることが必要でしょう。

県内は医療機関の連携が進んでいて、診療情報共有するシステムも整備されています。また、肝疾患についての研修会も定期的に行われ、私たちも専門医と情報交換し、最新の治療法を学んでいます。これからも関係機関とワンチームとなって、地域医療を支えていきたいですね。